福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

歴史街道を活かした地域整備の方向に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2011-08-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小塚, みすず, 三寺, 潤, 川本, 義海, 本多, 義明 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/3776

福井大学地域環境研究教育センター研究紀要
「日本海地域の自然と環境」
No.12，51-60，2005

歴史街道を活かした地域整備の方向に関する研究

A study on Regional Maintenance Course for Making Efficient Use of the Historic Highway

小塚みすず*1
（福井大学大学院工学研究科博士後期課程）
三寺　　潤*2
（福井大学大学院工学研究科博士後期課程）
川本　義海**
（福井大学大学院原子力・エネルギー安全工学専攻）
本多　義明***
（福井大学副学長）

1．はじめに

わが国には豊かな自然や個性あふれる伝統・文化等の地域固有の資源が数多く残されており、地域独自の魅力を持っている。国土交通省は「今後、知己固有の資源や特性を有効に活用しつつ、各地域が主体的に・・・（中略）・・・個性あふれる地域の発展を実現していく必要性がある」としている。近年では、全国で歴史的な町並みや街道等の保存運動の動きが活発化しブームとなっており、改めてその存在や価値が見直されてきている。なかでも、街道は時代とともにその姿を変えて発展してきているものの、現在でも昔の姿を残している場所が全国各地、随所に存在しており、過去の歴史や伝統・文化を今に伝えているという点からも貴重な資源といえる。

ここで、著者らが在住する福井地域についてみると、現在でもいたるところに豊かな自然や伝統文化が残されている。昔、各地から福井へ、福井から各地へ伝えられた文化は街道を通りもたらされたという点からも街道の存在意義は非常に大きい。

著者らは、街道やそれを取り巻く環境に関する情報を整理し、現地調査等を踏まえながら今後の個性ある地域整備の方向性を検討することが必要であると考え、本研究では、①街道に関する文献サーベイ、②街道の価値と活用の評価、③重要伝統的建造物群保存地区[注1)]の調査を行い、その特徴を読み解くこととする。以上より、街道および街道を取り巻く環境の価値を探り、これらに関する基礎的情報を提供することを目的とする。

（キーワード：街道，重要伝統的建造物群保存地区，若狭街道，熊川宿）

*1　Misuzu KOZUKA, Graduate School of Engineering, University of Fukui, 910-8507
*2　Jun MITERA, Graduate School of Engineering, University of Fukui,910-8507
**　Yoshimi KAWAMOTO, Graduate School of Engineering, University of Fukui, 910-8507
***　Yoshiaki HONDA, Vice-President, University of Fukui, 910-8507

２．街道の価値について

近年、全国各地で歴史的・文化的価値のあるものを活かした地域づくりや観光地づくりが行われるようになってきている。とくに最近では寺院のような建物など、局部的な価値を押しだすのではなく、それらを全て含めた総合的な空間的価値の活用が行われるようになっている。そのひとつが街道であり、例えば熊野古道のように街道にストーリーを持たせたものが世界的にも高い評価を受けている。

しかし、一言に「街道」と言っても言葉のイメージや概念などは人それぞれであり、日本の５街道のように歴史的に主要な役割を果たし、現在でも交通の動脈として活躍している街道もあれば、十分な整備がなされていない、あるいは、使われなくなった道としてのイメージもあるように思われる。したがって、街道はその言葉や役割自体が独特の雰囲気と、多面性をもち合わせたものであるといえる。それだけに、さまざまな価値が潜んでいると考えることができる。

そこで、本章では街道の持つ価値を多角的視点から捉え、街道とは何かを考える。

２．１　「街道の価値」の項目とその評価

先述したが、街道に対するイメージは人それぞれであり統一できるものではない。そこで、「街道の価値」という課題を出し、これを探るため、思いつくままに書き出してもらい、提出された項目についてまとめる形をとった。調査方法はブレーンライティングとし、まず、提出された項目を類似項目ごとに分類し、重複している項目はその項目を統一した。次に、この結果を調査対象者に通知し、全項目について５段階評価をしてもらうこととした。なお、調査対象者は福井地域環境研究会の交通分科会のメンバー7名である。

その結果、街道の価値として64項目が挙げられた。そして、これら64項目について５段階評価をしてもらった。この際、個人の評価基準の相違による評価の偏りをなくすために、評価基準は全項目数に対して５点、１点を各６項目、４点、２点を各12項目、残りを３点として28項目というように、各点数の数を決めて得点をつけている。最後に、これら 64 項目の内容の特徴や類似点から、「自然」、「情報・交流」、「歴史・文化」、「経済」、「まち・地域づくり」の５分類にして考察することとした。

２．２　街道の活用の方向性

ブレーンライティングの結果を用い、街道の価値の評価の傾向について個人属性をもとに行った。結果は表１と図１に示す。ここで表１は全64項目を５分類に振り分けたうち、評価得点の高かった上位３項目を抜粋して示したものである。しかし、これだけでは分類ごとで街道の価値についての明確な違いを見出すことができなかった。そこで、属性によらず評価の傾向のみで特徴をみたところ、アンケート回答者の７名は「自然」と「歴史・文化」を除いた３グループに分けられた。これらを総合的にみると、「歴史・文化」は最大値と最小値の差が最も小さく 7 名の平均値が全体の平均値にも近いことからも、評価が安定していると言える。一方、差が最も大きかったのは「自然」であった。また、「情報・交流」は７名の平均値が最も高いことから、現状の価値は最も高く、今後の街道の活用といった面から考えると、重要な要素となることは間違いない。

表１　ブレーンライティングの結果（平均得点）

分類	具体的な項目	得点
自然（全９項目）	1. 道と自然との調和を感じる	3. 71
	2. 古道の風情（自然）が味わえる	3. 43
	3. 四季を通じた街道整備があった	3. 00
情報・交流（全 15 項目）	1. 文化の交流（各地域の文化）	4. 14
	2. 主要なまち同士を結ぶ	3. 86
	3. 情報の運搬	3. 71
歴史・文化（全 17 項目）	1. 歴史的な陸路	3. 71
	2. 歴史ネットワークの再認識	3. 57
	3. 歴史そのものとしての価値	3. 57
経済（全８項目）	1. 物流の動脈であった	4. 29
	2. 陸上での移動経路	3. 43
	3. 地域の文化・産業の交流と伝統	3. 29
まちづくり・地域づくり（全 15 項目）	1. 宿場町建築物やまちなみ風景	4. 14
	2. 街道を介した地域イベント	3. 43
	3. 街道には個性がある	3. 43

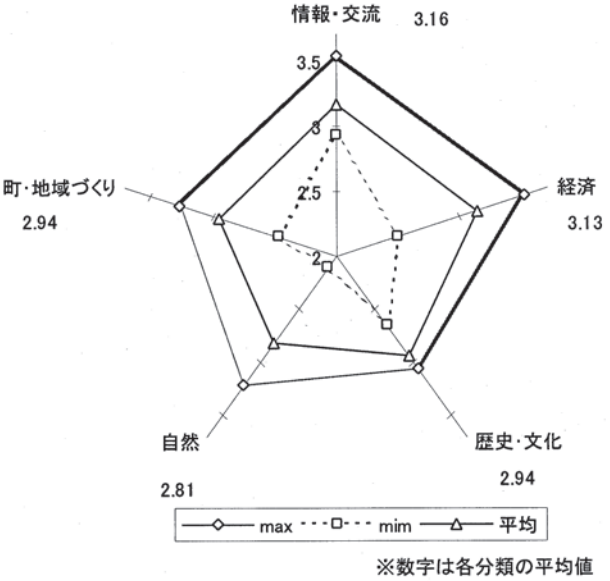

図１　分類別平均得点チャート

３. 重要伝統的建造物群保存地区の特徴

３．１　情報の収集方法

我が国には現在でも街道やその地域の歴史・文化を確認できるものとして残されている建物や地区が全国に点在している。ここでは、平成 16 年６月現在、重要伝統的建造物群保存地区（以下、保存地区）に指定されている 62 箇所の地区を対象に、その特徴を把握する。

保存地区の分布は図 2、指定されている地域は表 2 に示す通りであり、西日本に多く点在していることが分かる。また、地区の分類としては商家、武家、集落が比較的多い。さらに、関西は寺社、中部は宿場、中国・四国は産業の町並みなど、地域により保存地区に指定されている地区が偏っているという特徴もみられる。

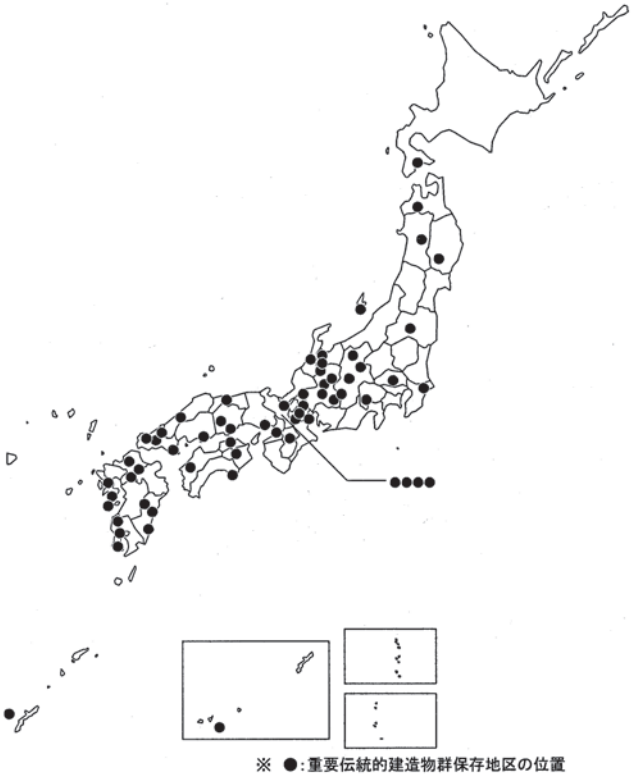

図２　重要伝統的建造物群保存地区の分布

３．２　キーワードの分類

インターネット調査の結果、キーワードは１地区あたり平均 29 単語抽出された。また、キーワードは「生活・文化」「伝統・歴史」「まち」「建築」「自然」「場所」の６つに分類した。その結果、最も多く収

集されたキーワードの分類は「まち」であり、特に「町並み」といったキーワードが多く抽出された。次いで多かった分類は「建築物」であった。保存地区であるためか、「うだつ」など建築物の構造や様式に関するキーワードが多く抽出されている。なお、収集したキーワードは固有名詞や長い文章等を除いたり、表現を統一するなどの作業を行っている。

表 2　全国の伝統的建造物群保存地区の分類

町並みの種類＼地域	北海道・東北	関東	北陸	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄	合計
商家	0	2	1	3	1	5	2	14
武家	3	0	0	0	0	2	5	10
集落	0	1	2	2	2	0	3	10
港町	1	0	1	0	1	3	3	9
宿場	1	0	1	4	0	0	0	6
寺社	0	0	0	0	6	0	0	6
産業	0	0	0	0	0	4	1	5
茶屋	0	0	1	0	1	0	0	2
合計	5	3	6	9	11	14	14	62

表 2 には 1 地区あたりの町並みの種類とキーワードの分類の関係を示す。まず、総単語数についてみると、今回、当該地区のホームページにアクセスしたものの内、産業や宿場を中心とした町で多くのキーワードがあげられている。一方、茶屋を中心とした町は非常に少なかった。次に、町並みの種類ごとにキーワードの分類をみると、その種類によってキーワードの分類の各単語数に差があり、地区の特色が見られる。これらの特色と文献を参考に考察すると、町並みの種類は表 4 のようにまとめられる。

表 3　キーワードの分類（1 地区あたり）

種類（町並み）＼分類（キーワード）	生活・文化	伝統・歴史	まち	建築物	自然	場所	総単語数
商家	4.6	5.1	7.5	6.1	2.8	1.9	28.0
武家	2.1	5.6	6.2	4.3	4.4	5.0	27.6
集落	5.2	3.9	3.9	4.7	8.3	4.4	30.4
港町	6.6	5.6	5.1	2.8	2.2	6.3	28.6
宿場	5.5	3.3	6.7	8.0	7.0	8.7	39.2
寺社	5.5	3.2	7.0	4.7	2.5	2.7	25.6
産業	7.0	9.0	6.6	6.4	4.0	6.2	39.2
茶屋	0.5	2.0	4.5	1.5	0.5	4.0	13.0
平均	4.7	4.8	6.0	4.9	4.2	4.5	29.0

■：各町並みの種類の中で最も多くあげられたｷｰﾜｰﾄﾞの分類
▩：　〃　2番目に多く　〃

なお、福井県で保存地区に指定されている熊川宿は、「江戸時代、物資流通、中継拠点、旧宿場町、前川、水路、石橋、洗い場、平入、妻入、町家主屋、町並景観、海産物、京都、重要ルート、京料理、水運、建て替え、旅篭、運送業者、問屋、商業、製造業、用途転用、歴史的街並み、連続した街並、意図的、屈曲部、御茶屋、藩蔵、町屋、土蔵、真壁造、塗込造、町奉行、宿場町、陣屋、奉行所、関所、一筋道、切り妻造り、平入り、妻入り、中二階建て、塗籠壁、虫籠窓、格子、桟瓦葺、袖壁で煙出し、バッタリ」の全 48 単語（生活・文化:10、伝統・歴史:3、まち:7、建築:4、自然:4、場所:10）が抽出された。

３．３　宿場町のキーワードの特徴把握

ここでは、福井県で唯一保全地区に指定されている熊川宿について今後の方針を検討するため、宿場町を中心とした町並みで抽出されたキーワードを分析し、宿場町独自のキーワードの特徴を把握する。分析には文章や自由回答のように形式が決められていない情報を分析することを目的として活用されている「トレンドサーチ[注2)]」というソフトを用いた。

表 4　調査による町並みの種類の特徴

●商家【まち、建築物】 近世から近代にかけて、交通や交易の要衝の地となった。これらの地区には周辺各地から物資や産品が集積し、町が栄えた。当時の繁栄によって築き上げられた上質かつ洗練された意匠を持つ町家が建ち並び、現在ではこれらを活かしたまちづくりが各地で展開されている。
●武家【まち、伝統・歴史】 近世日本の武家社会は、城下町という都市を生み出し、城郭を中心に武家・町人の居住地、社寺などによって構成される複合都市となった。なかでも武家町は広大な敷地の中央に屋敷と庭園を配し、周囲に門や塀などを設けた格式ある町並を創り出し、今でも当時の伝統・歴史を残す緑豊かな良質の住環境として、その魅力を失っていない。
●集落【自然、生活・文化】 かつて全国に無数に存在した集落は、農林水産業と結びついた日本人の生活基盤であった。集落には、地域の自然や文化との強い結び付きを持つ独特の形式を備えた民家が発達し、周囲の自然環境と一体をなした豊かな集落景観を作り上げ、日本の生活文化の魅力を伝えている。
●港町【生活・文化、場所】 四方を海で囲まれた日本では、近世を通じて東・西廻り航路に代表される全国的な海上交易網の成立により、海に開かれた個性豊かな町並が沿岸部各地に成立した。また、幕末に開かれた居留地と開港場は、近代に入り外洋を介して世界と結びついた貿易の拠点として繁栄し、洋館の建ち並ぶ独特の町並によって多くの人を魅了している。
●宿場【場所、建築物】 近世以降、江戸を中心として各地に張り巡らされた街道には、数多くの宿場が存在した。宿場の中心には公用の宿泊施設としての本陣、脇本陣の他に問屋場、高札場などが設けられ、街道沿いには多くの町家が建ち並んだ。現在も魅力あふれる歴史環境を求め多くの旅人で賑わっている。
●寺社【まち、生活・文化】 長い歴史の中で人々の信仰を集めてきた社寺は、同時に境内や門前に町を形成していった。これらの町は、信仰の形態や成立した時代、地形などの違いにより独自の町並景観を築き上げ、今なお続く信仰とともに、落ち着きのある風情を保持している。
●産業【伝統・歴史、生活・文化】 全国各地には、地域独特の産物と技術を背景とした産業と結びついた町が数多く存在していた。生活・文化や伝統・歴史も独自のものを持ち、これらの町の産業を支える多様な職人やこれを売りさばく商人などが居住し、莫大な富の蓄積により、変化に富んだ表情豊かな町並が築かれた。現在でも町並の随所に産業との結びつきが残されている。
●茶屋【まち、場所】 近世から近代にかけ、豊かな町人文化を背景とした遊興の場が都市の随所に創出された。その中でも茶屋町は、二階に設けられた座敷を中心とした洗練された社交の場として発展を遂げ、往時の佇まいや伝統芸能など独特の景観と風情を今に残している。

※【　】内は、インターネット調査によるキーワード分類で特に多かった分類項目

分析の結果は図 3 に示したイメージで概観できる。なお、今回適用した機能はキーワードを連想ゲームのようなイメージで示す機能であり、各キーワードについてその質点や関連性をバネの強さにみたてた物理シミュレーションを行うことで各キーワードを適正な位置に配置するものである。キーワードは互いに引き合ったり反発するのである。最終的に、関連が強いキーワードは近くに配置され、関連が弱いキーワードは離れて配置されている。

つまり、今回の分析結果は、「街道」というキーワードが中心となり、他のキーワードとつながっていることが読み取れる。また、大きく分けて、「街道」、「養蚕」、「解体・復元」のグループにまとめられ、「街道」はとくに「環境、にぎわい、茅葺、宿場、景観、歴史、物資」といった街道沿道の状況や役割を伝えるキーワードとの関連が強い。同様に、「養蚕」は「越屋根、蚕造建物室、旅籠」、「解体･復元」は「情緒、面影、本陣、脇本陣、形式」といったかつてまちにあった独自の空間を表すキーワードと関連付けられていると考察できる。

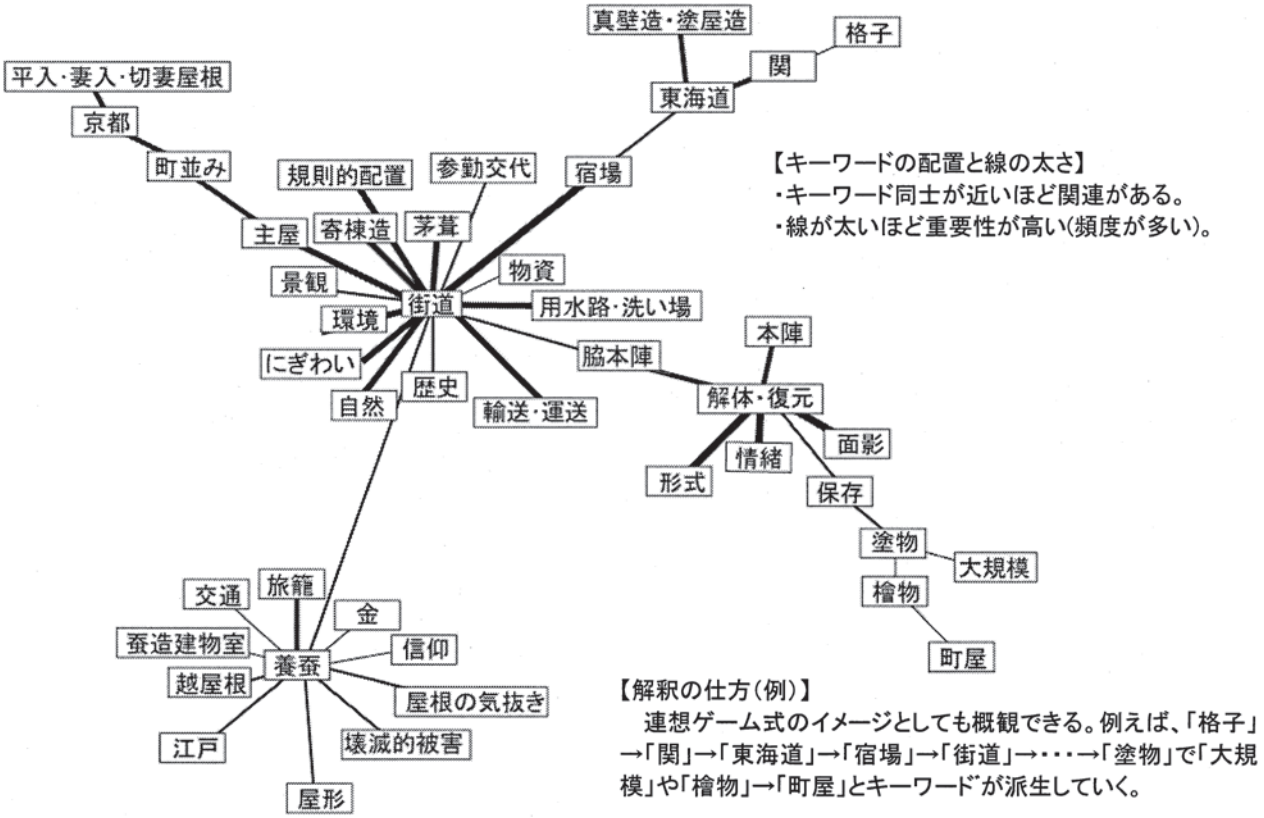

図 3　キーワード間の関連（宿場町）

以上のことから、宿場町を中心とした町並みには、街道の存在が非常に大きく影響しており、保存・整備されている建造物や宿場そのものを示すだけでなく、街道自体に触れることができるような情報を提供している傾向があると考えられる。

4．若狭街道調査

若狭街道の現地調査を平成 16 年 6 月 11 日と平成 17 年 5 月 1 日に実施した。調査では若狭街道のルートを探索し、観光施設などを訪ねている。以下では、若狭街道および要衝の地でもある熊川宿を紹介し、将来の整備の方向性について検討する。

表 5　熊川宿のデータ

地区名称	上中町熊川宿
種別	宿場町
保存地区制定年月日	H8 年 7 月 9 日
面積	10.8k ㎡
伝統的建造物（建築物/工作物）	229/109
環境物件	24

（1）街道の位置

若狭街道は現在のルートにすると、小浜から国道 27 号を経て上中町の熊川を通り国道 303 号で滋賀県の今津町保坂、朽木村を通り、京都の大原、八瀬を南下し、国道 367 号左京区の出柳付近に至る約 80km の道のりである。これは最も良く知られたルートである。しかし実は、若狭街道はこれ以外にも多くのルートが存在する。この街道は若狭と京都を結ぶ道として、日本海と都を結ぶ古代からの重要な道である（図 4)。

（2）歴史・史跡など

日本海から若狭に伝えられた大陸や朝鮮半島の先進文化は若狭街道を通り都に入った。また、塩や魚なども税として京に運ばれた。これらの事実は奈良地方で出土した古代の木簡に残されている。

起点の小浜に注目すると、城下町であった小浜は江戸初期から中期にかけて港町として発展した。物資の中継地としては熊川などの宿場町が形成され、鮮度が命の魚などは若狭街道を利用して一昼夜で運ばれたこともあり、熊川は非常に繁栄していた。若狭には都のさまざまなものが持ち込まれた。古代には仏教文化が遠敷で花開き寺院が甍を連ねた。また、多くの外国船舶が来航し、多くの唐人が移住している。そんな中、1408 年にスマトラ島（インドネシア）のパレンバンから当時の室町将軍であった足利義満への進物として生象・山馬・孔雀・オウムなどを乗せた南蛮船が入航した。中世から近世にかけては六歳念仏などさまざまな宗教行事や民俗芸能が栄えた。

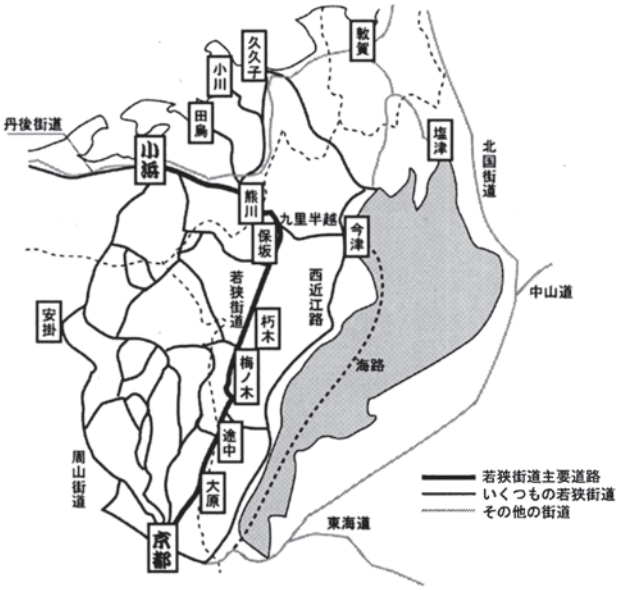

図 4　いくつもの若狭街道（若狭から京へ）

若狭から京都へ至る街道には本来固有の呼び名があるが、運ばれた物資の中で“鯖”が特に注目され有名になったことからこれらの街道を総称して「鯖街道」と呼ぶようになった。若狭から運ばれた鯖が京の都につく頃には、ちょうどよい塩加減になったといわれ、京都の食文化の中には、今も若狭の魚が生きており、鯖街道と呼ばれるにふさわしい歴史的背景と物語を持った街道であるといえる。

（3）熊川宿の整備状況と各種施設

若狭街道で現在も家並みを残している代表的な宿場町として熊川を取り上げる。熊川は水坂峠を下り近江から若狭へ入った地に位置する。1529 年には熊川城が構えられていたように一帯は古来、軍事、交通の要衝であった。宿場町として発展したのは若狭国主の浅野長政が 1589 年に街道の宿場として整備してからのことである。江戸時代には小浜藩の関所が置かれておいた。また、物資輸送の中継地として大いに繁栄していた。熊川発展の理由は、国境の関所町としてのみならず、大量の物資を動かす問屋や脇問屋、場借があったからともいわれている。現在では、国の重要伝統的建造物郡保存地区に選定され、国道 27 号の南側に約 1.4km にわたる旧街道（若狭街道）の両側に、約 1.1km の区間、平入りと妻入りの軒に町屋造りの民家が軒を連ねた家並みで形成されている。

街道が通る下ノ町と中ノ町の間には意識的に曲げられている箇所があり、熊川では「まがり」と呼ばれている。中ノ町には町奉行所、蔵奉行所、問屋や寺社など町の中心的役割を果たした施設があり、交通と軍事の要衝であった熊川においてはこのまがりは城下町構成とも言ってもよい。町の入口にあるのが普通であることや町中の構成から、町が徐々に西に拡大していったことが考えられる。

熊川宿に欠かせない資源として、豊富で流れの速い水路（前川）がある。これは日常生活に欠かせない水路であり、各家には「かわと」という水利施設が設けられた。中ノ町の前川は河内川の水を取り入れ、下ノ町まで流れている。前川が設けられたのは天正年間（1573～92）と言われている。

写真１　まがり

写真２　前川（水路）

（４）街道（熊川宿）の魅力と整備の方向

現地調査により、熊川宿には建物、町の構成、景観、自然などさまざまな魅力あることが確認できた。これらの現在も残る資源を活かすとともに、さらに魅力を引き出すために、現状の把握・検討を行い、改善すべく箇所を見つけ、策を提案する。まとめた結果は図５に示す。

【 良さ 】
・建物の連続性がある
・改修工事を町並みに合わせ行っている
・前川が残り、整備されている
・電柱の地中化
・周囲に豊かな自然が残っている

【 改善箇所 】
・情報 案内 サインが少ない(分かりにくい)
　　→道路、施設、観光ルートに関して
・植栽や水路が活かしきれていない
・町全体が寂しい（町に活気がない）
・車の進入について
・町中の色の使い方
・街道としての連続性

【 提案 】
・町や街道としての物語性をつくる
・演出を加える
・街道としての連続性を考える
・ポイントごとの整備とそのつながり
・街道の中での鯖の状態変化を伝える
・名物の出し方の工夫
・熊川宿、若狭街道の独自性を見つける
・活気が感じられない→お土産屋が少ない
・興味を引くパンフの制作
・アピールポイントを考え直す、強調する。
　(ex.まがりを強調)
・独自のイベントや企画を行なう
　(ex.宿場体験学習、宿場での宿泊体験)
・周囲の観光地とのタイアップ

図５　今後の整備のための提案

以上のことから、熊川宿という一地区だけでなく若狭街道全体として残っている昔の文化・歴史・交流・生活などの資源を通じ、魅力や価値を探り、ストーリー（物語性）を持たせ、提案していくことでどの街道にも劣らない素晴らしい街道として全国に若狭街道をアピールしていくことが可能と思われる。そのための方法として、まずは詳しい調査・検討はもちろん、人をひきつけ「行ってみたい！」と思わせるようなパンフレットをつくることが一つのキーポイントとなり、きっかけとなる。また、今後の課題としてはＰＲの場をインターネットや雑誌・本の紹介だけに止めず、観光地として東尋坊や永平寺のように行政が全国的に情報を配信する必要性もあると思われる。現在は整備などのハード面が中心に実

施され、平成 17 年度で整備が終了される予定であるが、今後はさまざまなイベントを行うなどのソフト面の企画も併せて行ってみてはどうか。例えば、熊川宿は宿場町ということから宿泊体験や昔の生活を体験できる企画を行ったり、熊川宿の 1 箇所だけでなく近隣にある観光地との連携も考え、周遊できるような観光地づくりを考え、地域が一体となって各活動を盛り上げていく必要がある。そして、今後も地域の伝統・文化等を伝えていくための住民自らの手による維持・管理、それをサポートする行政の協力体制が重要といえる。

5．まとめ

本研究は街道やそれを取り巻く環境に関する情報を整理し、現地調査等を踏まえながら今後の個性ある地域整備の方向性を検討することが必要であると考え、街道および街道を取り巻く環境の価値と今後の整備の方向について検討した。この成果を以下に示す。

（1）ブレーンライティングの結果、我々は街道を「自然」、「情報・交流」、「歴史・文化」、「経済」、「まちづくり・地域づくり」の 5 つの活用の方向があると考えた。これらについて具体的内容を示し、今後の街道の活用の方向について評価を行ったところ、「情報・交流」が現状での価値が最も高く、重要な要素であることが示された。

(2) 全国の古来の町並みや風情を残す重要伝統的建造物群保存地区に指定されているまちに着目し、各保存地区でキーワードとなる単語をインターネット調査により収集し、各保存地区の情報提供の特徴とそこから読み取れる地区の特色を考察した。その結果、保存地区に指定されている地域は西日本に多く点在しており、関西は寺社、中部は宿場、中国・四国は産業の町並みなど、保存地区に指定されている地区が偏っているという特徴が見られた。また、町並みの種類によってキーワードの分類の各単語数に差があり、地区の特色を確認することができた。

（3）宿場町のキーワードの特徴を把握するため、トレンドサーチを用いキーワードの関連の分析を行った。その結果、宿場町を中心とした町並みに関するキーワードは、街道の存在が非常に大きく影響しており、保存されている建造物や宿場そのものだけでなく、街道自体に触れることができるような情報を提供していると考えられる。

以上より、街道および重要伝統的建造物群保存地区の調査により、街道を取り巻く環境と今後の方向について若狭街道の熊川宿を事例とし、基礎的情報を提供した。なお、本研究は平成 15 年から 2 年間に亘り行なってきたものであり、全国 8 箇所の現地調査を実施してきた[注3)](平成 17 年 6 月現在)。

今後の課題として、他の地区を事例とした全国のベストプラクティス等を参考にし、将来のビジョンを見据えた地域独自の施策や実効性のある企画の展開が求められる。

謝辞

最後に、本研究を進めるにあたり、資料収集や調査・分析など、多岐に亘り協力していただきました福井地域環境研究会の交通分科会メンバーの飯塚由美氏、加藤式男氏、今度充之氏、坂東雅彦氏に深く感謝の意を表する。

補注

1）伝統的建造物群及びこれと一体をなしてその価値を形成している環境を保存するため、市町村は、都市計画区域内においては都市計画で、都市計画区域以外においては条例で、伝統的建造物群保存地区を定めることができる。市町村は、現状変更の規制と保存のための必要な措置を確保するため必要と認める場合においては、国土交通大臣の承認を得て、条例で建築基準法の規定を緩和することができる。

2) トレンドサーチは Microsoft®Excel に保管されているアンケートなどのフリー形式のテキスト文章データを，独自のキーワードアソシエーション，コンセプトマッピング画面にビジュアル表示することにより，フリー形式データに含まれる単語間の出現頻度や相関を直感的に把握することを可能としたソフトウェアである。特徴は、「①Excel 上からワンタッチで分析作業ができる。②フリー形式データをそのままの形式で分析可能。③2,000 行のデータ行数の取扱ができる。④単語の出現頻度だけでなく、単語間の関連性に着目した分析をすることができ、隠れた関連性を導き出すことが可能である。⑤テキストの概念や特定の視点に着目した傾向をビジュアル的に表示する。」などがあげられる。

3)①若狭街道（福井県「熊川宿」）、②北国街道（福井、滋賀県「今庄宿・板取宿」）、③北国街道（石川県「茶屋町」）、④北国街道（新潟県「出雲崎宿」）、⑤吉備街道（岡山県）、⑥熊野古道（和歌山・三重県）、⑦塩津街道（滋賀県）、⑧朝鮮街道（滋賀県「近江八幡」）。

引用・参考文献

河合敦(2004)：日本伝統の町.
講談社(2002)：週刊日本の街道 1 京都・若狭街道 鯖街道.
国土交通省(2004)：国土交通白書 平成 16 年版.
児玉幸多(1981)：日本の街道全 8 巻.
藤井譲治(2002)：街道の日本史 31 近江・若狭と湖の道.
福井県遠敷郡上中町教育委員会：若狭街道熊川宿.
みわ明(2003)：県別全国古街道辞典 西日本偏.
山川出版社(1991)：新版 福井県の歴史散歩、新全国歴史散歩シリーズ 18.
http://www.machinami-net.gr.jp/Hozontiku/kumakawa.html
http://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/kanko/spot/kumagawa/index.htm
http://www2.i8d.jp/userweb1/wakasa/kanko/spot/kumagawa/tokutyo.htm